

第2回 横浜市戸塚区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和7年3月25日（火） 午後4時から午後5時10分まで
開 催 場 所	戸塚区役所8階大会議室B
出 席 者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 西尾 敦史（愛知東邦大学 人間健康学部 人間健康学科 教授）</p> <p>委員 新井 敏行（戸塚区名瀬連合町内会 会長）</p> <p>木村 サチ子（踊場地区民生委員児童委員協議会 元会長）</p> <p>中嶋 伴子（とつか区民活動センター センター長）</p> <p>本庄 里実（東京地方税理士会戸塚支部 会員）</p> <p>【事務局】</p> <p>戸塚区福祉保健センター長 内田 沢子</p> <p>戸塚区福祉保健センター担当部長 緑川 斉</p> <p>戸塚区福祉保健課長 佐藤 修一</p> <p>戸塚区福祉保健課事業企画担当係長 平野 亜由子</p> <p>戸塚区福祉保健課事業企画担当 秦 杏介、前原 淳史</p> <p>小澤 朋之</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開（指定管理者の候補者（以下、「指定候補者」という。）の選定に関する審議について非公開）（傍聴者なし）
議 題	<p>1 事前確認事項</p> <p>2 申請団体の面接審査</p> <p>（1）申請団体の面接審査</p> <p>（2）本市重要政策を踏まえた申請団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明</p> <p>3 指定候補者の選定、講評</p>
決 定 事 項	<p>指定候補者として、次のとおり、横浜市戸塚区長に報告することとする。</p> <p>○ 横浜市戸塚区福祉保健活動拠点の指定候補者</p> <p>社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会</p>
議 事	<p><u>1 申請団体による面接審査</u></p> <p>（1）事前確認事項</p> <p>事務局から、社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会から申請書類の提出があった旨を報告するとともに、次の3点について確認した。</p> <p>○委員会の公開・非公開</p> <p>申請団体審査、指定候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認。（第1回委員会で審議済み）</p> <p>※なお、申請団体の面接（プレゼンテーション及びヒアリング）は公開</p> <p>○面接審査の進め方及び質問項目の確認（事務局）</p> <p>・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。</p>

- ・最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。

○申請団体の資格要件等について
(事務局)

- ・資格要件について、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。
- ・欠格事由に該当しないことを報告。

(2)面接審査

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答（以下、社会福祉協議会は、「社協」とする。）

(委員) ボランティアの育成に苦勞していると聞いたが、明治学院大学のボランティアから就労につながっていくのではないかなと思う。また、若い年代の方々のボランティア確保はインターネットを活用していくのが有効だと思う。

(団体) 明治学院大学のボランティアセンターと連携を取っていて、ボランティアセンターへの依頼をするとともに、1年生の授業にも参加・交流して、ボランティアについて学生たちと意見交換している。2年生からキャンパスが変わってしまうが、国際学部の学生はそのまま4年間在学するので、こちらにも働きかけをしようと考えている。また、SNSの活用については、学生に様々な情報発信ができるように整備していく。

(委員) 区、市、県それぞれの社協との関係性を教えてほしい。

(団体) それぞれの社協の関係性については、区、市、県ともに法人格を持っていて、別々の組織になっている。区社協は12人体制であるが、市社協の職員が区社協へ出向する形で組織されている。

(委員) 生活支援ボランティアに関して、高齢化やコロナ禍の影響によって解散している実情があるが、今後の取組検討していることはあるか。また、情報共有会のメンバー構成を教えてほしい。

(団体) 昨年度3団体が解散しているが、ニーズとしては高まっていて、現在は生活支援コーディネーター連絡会で定期的にボランティアのニーズがある地域の洗い出しをして、団体立ち上げの必要性を検討している。情報共有会は、各地域ケアプラザの生活支援コーディネーターと、地域ケアプラザ区域ごとのボランティアが参加している。今後も継続予定。

(委員) 移動支援事業に関して、解散した団体があり、支援の手の数が減少傾向だと思われるが、その中でボランティアの確保と養成をすることに苦勞している点と工夫している点を聞きたい。

(団体) 高齢者のボランティアが主流ではあるが、70歳を超えても働いている方が多い。また、高齢者の車の運転は事故のリスクがあり、運転しない方も多いため、支援の手の不足が顕著になっている。運転ボランティアに関しては、横浜市との共催で運転ボランティアの養成講座を開催した。ボランティア人材の確保には地道な活動継続が必要。地区社協分科会でもボランティア確保に関して話し合いの場を設けて

いる。

(3) 本市重要政策を踏まえた申請団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

事務局より本市重要政策を踏まえた申請団体の取組状況について説明。

事務局より前期実績報告書について説明。

本庄委員より財務分析結果報告書について説明。

2 指定候補者の選定、講評

申請者から提出された申請書類及びプレゼンテーション等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

横浜市戸塚区福祉保健活動拠点

	申請団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点／基準点
指定候補者	社会福祉法人 横浜市戸塚区社会 福祉協議会	962／1,150 点	897／630 点

(審査講評)・明治学院大学がある地の利を生かして、学生ボランティアの養成にもっと注力してもよいのでは。コロナ禍の際はボランティア養成に力を入れていたと感じる。

・大学に限らず、高校、中学校にもボランティアの輪を広げていけるとよいのでは。

・ボランティアの相談数は増えているが、なかなかマッチングしない。単発の体験的な参加があるものの、継続的な支援に結びつかない。この状況下でどのようにボランティア人材を養成するか、知恵を絞らなければいけないと感じる。

・区社協は地域の様々な情報が集まる場所なので、その情報を積極的に発信してほしい。その情報に対して関係施設等で一緒にできることを考えていけるようなネットワークが構築できるとよい。

・大学生のボランティアの話題が出る一方で、学費の工面のために働く学生も多いので、ボランティアまでできる余裕がない実情もあるのでは。また学生の中にボランティア経験があっても、社会人になるとなかなかボランティアをすることが難しいのでは。

・ボランティアの支えがない社会を想像する機会があると、意識が変わっていかないか。

・小学生の段階から、福祉とは何かを考えられるきっかけづくりができるようになるとよい。

・とつかハートプランでは自分事にして物事を考えると謳っている。そのようなアプローチ方法にしてみてもよいのでは。

・福祉人材が不足しているという話に関しては、こどもの頃から福祉を身近に感じてもらい、職業のひとつとして考えてもらえるようにつなげていけたらと考える。そのためにも区社協で集約された情報を積極的に発信していただき、関係機関と一緒に検討していくことが重要。

	<p>・社会福祉法人と地域がつながる連絡会をしていることが戸塚区社協としての特徴。社会福祉法人の力を、地域のニーズにどのように結びつけるか、という点での働きかけは重要な役割であり、期待している。ここを頑張っていたきたい。</p> <p>申請者の得点は、最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会を指定候補者として選定することを決定する。</p>
資 料 ・ 特 記 事 項	<p><u>1 資料</u></p> <p>(1) 面接審査について（資料1） (2) 各種照会結果について（資料2及び資料3） (3) 申請関係書類（一式） (4) 財務分析結果報告書 (5) 前期の指定管理業務の実績報告書 (6) 採点表</p> <p><u>2 特記事項</u></p> <p>特になし</p>